金ヶ崎周辺施設整備計画：概要版

敦賀市産業経済部新幹線まちづくり課

1. 現況

(1) 敦賀市の観光動向

- 観光客の約8割は中京・関西圏からで、関東からは少ない。
- 平成34年度に北陸新幹線が延伸され、飛躍が期待される。

(2) 金ヶ崎周辺地区

- ミライエ等のイベントや赤レンガ倉庫の運用開始により、観光客は増加傾向にある。

2. 上位計画

(1) 金ヶ崎周辺整備構想（平成24年）

～敦賀ノスタルジアム～

ノスタルジー	ミュージアム
古き良き時代を感じる	金ヶ崎全体が博物館

(2) 景観まちづくり刷新モデル地区

- 国土交通省より、観光拠点「人道の港」の整備とまちなみ刷新としてモデル地区に選定。

3. 課題

(1) 金ヶ崎周辺地区

- 景観が失われ、古き良き敦賀のイメージが見えない。
- 目に見える景色に乏しく、周辺地区を巡るしかけに乏しい。

(2) 人道の港敦賀ムゼウム

- 展示や活動のスペースが不足するとともに、メッセージを伝えるためのコンテンツも不足。

4. 基本方針

敦賀だからこそ表現できる、ノスタルジックな景観の中で「命」と「平和」の尊さを考える、ストーリーと場を実現

(1) 古きよき敦賀を可視化

- 敦賀の古き良き時代を伝える景観の再現
- 金ヶ崎ならではのストーリーでエリアを巡る

(2) 既存資源・取り組みの有効活用

- 鉄道遺産等、既存資源を有効活用
- 「鉄道と港」のまちづくりの発展拡張

(3) 人道の港ブランドの確立

- 「ノスタルジー」×「人道」で敦賀だけのストーリー
- 「命」の尊さ、「平和」の大切さを考えてもらう

新たな観光拠点の出現で敦賀市の知名度の向上 ▶ 回遊性を向上させ観光振興・経済振興に寄与 ▶ 敦賀市のブランド向上に寄与

5. 事業計画

協働・連携により、人道の港ブランドを確立・拡充

(1) 展示・演出事業

- 往時の雰囲気の中で命や平和の大切さを考えるための展示や演出

(2) 教育普及事業

- 市民や観光客に人道の港を伝えるためのプログラムを開発・提供

(3) 交流・サービス事業

- カフェやショップ等、利用を促す利便性の提供と、多彩なイベント展開

(4) 広報・情報発信事業

- インターネットの効果的な活用等により、きめ細やかな情報提供

(5) 収集保存調査研究事業

- 人道の港ブランドの源泉となる資料や情報を蓄積して諸事業を下支え

ターゲットごとの興味分析

- 居心地が良かったり、休憩ができる。
- 珍しい、楽しい体験ができる。
- 学校教育としても利用できる。
- 日本らしいおもてなしの提供、等

質の高いサービスで観光客の満足度を向上

市民　子どもファミリー　学習利用　個人旅行　団体旅行　外国人観光客

6. 人道の港敦賀ムゼウムの移転拡張

(1) 移転する場所

- 景観まちづくり刷新モデル地区事業により、往時の建物を4棟復元する。ムゼウムは復元4棟に移転。

見取り図

(2) 移転後の面積

- 現ムゼウムは、延床278㎡、展示面積177㎡。
- 復元4棟の想定面積は延床で約1000㎡を見込むため、移転で規模はおよそ3.8倍に拡充できる。

測量に基づく復元４棟の想定面積

建築物	建物面積	階層	延床面積	有効面積
❶税関旅具検査場	約404㎡	1階	約404㎡	約283㎡
❷敦賀港駅	約104㎡	2階	約208㎡	約146㎡
❸大和田回漕部	約90㎡	2階	約180㎡	約126㎡
❹ロシア義勇艦隊	約135㎡	2階	約270㎡	約189㎡
合計	約733㎡	―	約1,062㎡	約743㎡

建物面積は測量に基づく想定値。設計よって誤差が出る可能性がある。有効面積は、共用部（通路・倉庫・設備スペース等）を除いた、実質的に利用できる面積。延床面積の約７割で設定。

7. 施設計画

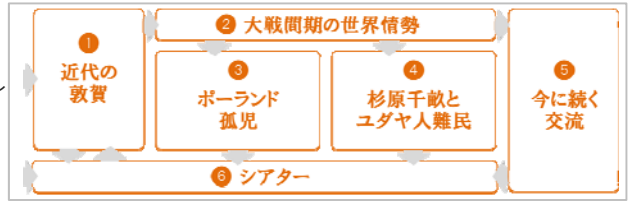
(1) 新たな人道の港敦賀ムゼウム

平和と博愛を考えるプログラムと場を拡充

①ムゼウムの整備方針

- 新たに整備する復元4棟へ移転し、諸事業と場を拡充する。
- 平和と博愛を考える場の中心的な存在として、展示や教育普及等、十分な事業活動ができる規模を検討する。
- 学習旅行等、団体観光客を十分に受け入れられるようにする。
- 地区内の既存施設と役割分担し、相乗効果を生み出せるようにする。

展示構成（案）



②復元4棟の概要

- 欧亜国際連絡列車が運行していた大正～昭和初期に、図中の示す位置にあった建物群。本事業で復元を予定。

右より、税関旅検査所、敦賀港駅（旧金ヶ崎駅）、大和田回漕部、ロシア義勇艦隊

復元４棟のイメージ（案）「敦賀港レトロロマンARアプリ」より

(2) 金ヶ崎周辺地区

既存資源と一体的に整備して回遊性を高める

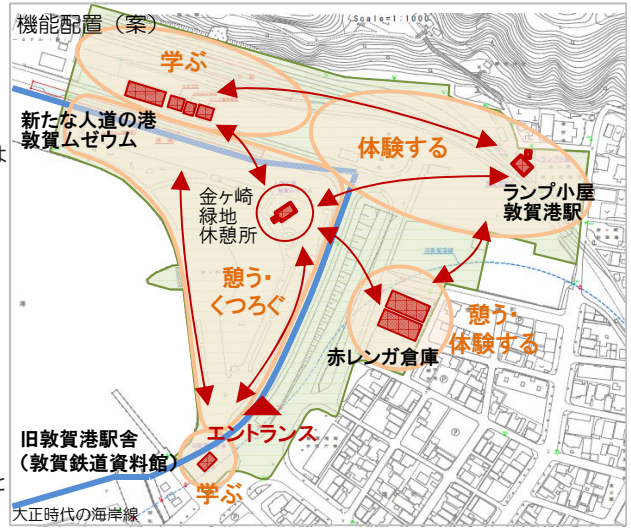
①地区全体の整備方針

- 市民が気軽に利用できるようにする。
- 周辺と一体的な整備により景観を整える。
- 既存資源を活かし、それらの間を楽しく散策できるようにする。
- 失われた建築物・建造物等を復元。まずは復元4棟を正しい位置に整備する。
- ボランティア等の活動拠点を設ける。
- 駐車場を確保し利便性を高める。

②鉄道遺産の整備方針

- ランプ小屋や軌道等、地区内の港線の既存設備を有効活用する。
- 敦賀駅の旧転車台を移転し活用する（福井県で現在検討中）。
- 市内にある鉄道遺産とも連携し、回遊性を生み出す。
- 北陸本線トンネル群等、市外の鉄道遺産との連携も検討していく。

機能配置（案）



8. スケジュール（案）

- 平成34年度の北陸新幹線の敦賀延伸を見据えて整備や運営の準備を行っていく。

平成29年度	30年度	31年度	32年度	34年度
基本計画				
建築基本設計	建築実施設計	建築工事		
	展示設計	展示製作		
		運営準備	供用開始	北陸新幹線敦賀延伸